

第2回地域力・つながり部会

日 時 平成20年10月20日（月）午後6時30分

場 所 川崎区役所7階会議室

出席者（敬称略）

（1）委員 6人

猪熊俊夫、吉野智佐雄、藍原晃、島田潤二、朴栄子、星川孝宜

（2）オブザーバー 1名（委員長）

魚津利興

1 開 会

事務局 <会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の順守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者の紹介>

部会長 前回、部会長の選出、審議テーマ、部会名が決まった。きょうは審議テーマに沿って、課題の洗い出しと、できれば解決策についても議論を深めたい。

今日は委員長がオブザーバーとして参加している。

2 議 題

（1）課題について

部会長 議題1の課題について検討したい。前回審議テーマが「手をつなごう地域のつながり」と決まったが、今日は次の3点を念頭に議論したい。1点目は検討した方向性に沿って地域で何が問題（課題）なのか、課題を抽出する。2点目は区民が共感できる課題を検討する。3点目は、検討するに当たって部会内で共通認識を形成する。

前回の皆さんのご意見が資料にまとまっている。これらの発言をした背景について、各委員から説明していただきたい。一通り説明をいただいた後、ここに入っていないものがあれば、そういう発言の機会も設けたい。

まず最初の意見、地域の連携ができていない（離れてしまっている）という非常にコンパクトな書き方になっているが、それを裏づけるような説明をいただけるとありがたい。

委員 町会の事業は、防犯・防災、環境衛生、その他もろもろがある。行政が関わってうまく実施されているようには思うが、具体的が活動については特定の人に参加することになっている。

日曜・祝日ならば、多くの人を巻き込んで活動することはある程度可能だが、平日だ

と力になる人が出勤して不在になってしまうので、比較的高齢の方や定年退職した人、子どもばかりになってしまう。町会の組織構成もそのものずばり、60歳から70歳のシニア世代だ。

しかし具体的な取り組みには、若い人の力を借りたい場面も出てくる。そういう接点をどうつくっていくか。通常ならば役員会などの会合を通じて情報を流して、参加してもらう。情報は、町会にとっては大事な媒体なので、今の町会はそういった面を担当する庶務的な面が流れとしてはできつつある。この辺をしっかりとすれば、他の防犯関係、交通関係、衛生関係などで参加していく流れはつくりやすい。

ただ、地域にはさまざまな人が住んでいるところに問題が生じる。前回もこの部会で話が出ていたように、外国人の方にも参加してほしいという願いがある。ところが、町会による連携の呼びかけというのはどうしても限界が出てしまうので、これは行政の力を借りないと難しいと思う。

私が地域の連携といったのは、そういうところを少し考えなければならないということだ。それにはもろもろの経費もかかってくる。だから、そういう経費については行政の協働推進事業をうまく活用させてもらえれば良いと思っている。こういった問題について議論できたらと思う。

部会長 誇りを持つというご意見、情報発信についてのご意見、また地域の自慢探し、自慢づくりが必要だという発言をされた委員はいかがか。

委員 自分たちの住んでいるところが、ほかのまちよりもっと良いんだという誇りを持つと。それは町内会ごとに違うと思う。私たちの住んでいるまちはごみの分別をきちっとやっているとか、ごみが落ちていて誰ということなく掃除をするとか、安全パトロールをして、みんなが気をつけて子どもたちの行動を見つめているなど。何でもいいので、我々のまちは一歩先んじているという誇りがあって、それを周囲が認めている。認められて初めて自分のまちというのはいいのかなと思うようになる。自己満足だけでは長続きしないので、そういうことが必要ではないかと思っている。

どんなものを我がまちの誇りにするかというと、一番手っ取り早く誰でもわかりやすいのは、自分たちの地域の自慢話。自慢にすることがあれば、それを共通の軸にして集まり得るのではないかと。

全回の会議でも話が出ていたが、伝統あるお祭りがあっても、住んでいる人には、ほかの地区から比べてもすばらしいお祭りだということは分からない。それを認識すると、だんだんおらがまちの自慢になってくる。

そういう意味で、情報発信が必要だと思っている。大師地区では、自転車にいろんな看板をつけて、子どもの安全パトロールをまちの方が相当やっているという話を聞いた。

私のいるところではそういう自転車パトロールは余り見ない。ほかの地域は何をやっているのか、何を自慢にしているのかという情報が発信するところがないと思う。

確かに行政から市政だよりなどが出ていて、克明に読んでいけばわかるのだろうが、もっと端的にわかりやすいものが必要ではないか。「いいじゃんかわさき」だって、最近非常に大きくアピールしているのでだんだん市民に浸透してきたが、初めのころは、お店はみんなシャッターをおろして、外部から来た商売人が店先の地べたへ並べて売っている、ちょっと違うんじゃないかという印象が強かった。今は商店も積極的に参加してするという風に大分変わってきた。ああいう情報すら、市民の中へ伝達されない。

私は歴史ガイド協会に所属しているので、川崎の歴史をもう少しみんなで知ったらどうか、そうすると川崎はすごいまちだということがわかるということを常々思っている。ただ、情報拠点と言っても歴史情報の発信拠点と狭く解釈しないで、せっきやく区民会議があるのだから、区民会議の取り組みや、それぞれのまちが何をやっているかを気楽に発表できるような、あるいはそこへ行くとそういったことが何となくわかるような情報発信拠点がぜひ必要ではないかと。発言は3点書かれているが、そういうことだ。

委員 「いいじゃんかわさき」は、いつも市民祭りより先にやっている。

委員 部外者として見ると、何でかわさき市民祭りと「いいじゃんかわさき」を別々にやるのかという感じもある。

委員 以前は各商店街が小さなイベントをたくさんやっていたが、それでは経費がかかったり人集めにも苦勞する。だから、6商店街が一緒になって「いいじゃんかわさき」というのをやったのが経緯。

今、TMOでは川崎を少し売っていこうと、フェスティバルな川崎とって京浜急行に広告を出したりしている。イベントをやるなら、川崎を宣伝するために、外部へいろいろな宣伝を打てと言っている。行政を批判するわけではないが、今まで商店街をずっとやってきて、本当に川崎というのは宣伝が下手だと思う。例えば横浜だと、何かちょこっとやると、それが有名になってしまう。ところが、川崎は同じようなイベントをやっているのだが、なかなか売り込めない。それで仕掛けたのが、今度26日にやるハロウィン。僕は1回目からずっと実行委員長をやっていて、外部へ宣伝しろ、宣伝しろと言っていたら、今はテレビなどで取り上げてくれている。

委員 私が言った情報発信拠点というのは、そういうものを包括して把握していく。

最近あちこちの新聞社から活動状況の話を聞きたいと来る。こういう問題は川崎のどこへ行ったら詳しい人がいるのかと聞かれることが多いが、私もわからない。情報セン

ターというか、そこへ行くと川崎のことが良くわかる、また知らなくてもこの話は誰がよく知っているとか、あの町内会がやっているなど、そういった問い合わせに対応できる場所が必要。発端は、川崎というのは川崎宿という宿場だったことを知らない区民が多いので知らせたいということがあったが、全市的な視点で見ると、そういう情報発信拠点がぜひ必要だと思う。

それが結果的にPRが主体のものになっていったら、それはそれでニーズがあったということ。初めからこういうものをやると決めなくてもいいと思う。

部会長 課題としては、情報発信力が弱い、共有化されていないということか。

今話に出たハロウィンも関係あると思うが、協力体制についての意見に関して、発言した委員から説明をお願いしたい。

委員 協力体制といってもいろいろあると思う。9月28日に市で美化運動やったのに参加した。子どもと親との心のつながりというのもああいうところではできないのではないかと思うが、残念ながら余り子どもが参加していないようだった。もっと利用できると思う。

商店街でも子どものイベントはいろいろある。「いいじゃんかわさき」でも子どものイベントを取り入れているし、今度のハロウィンでも全国の子どもからハロウィンの歌を募集した。埼玉県の方の歌詞が入賞して、それに曲づけをして、東田公園で発表会をやる。そういうところにもぜひとも親子でも子どもだけでもいいので、参加してもらいたい。26日には全商店街が一緒になって、各商店街でハロウィンの格好をした人には飴をあげるとか、親子で参加するイベントを組んでいる。そういうところをうまく利用して、各町内会の方々でも子どもを連れて行って利用すれば、いい親子関係ができ、家庭がまとまる。その家庭のまとまりが地域のつながりになる気がする。

町内会でも我々が小さいときには子ども会があった。子ども野球や子ども相撲などいろいろやっていたが、地域のつながりを持つには、そういうものをより活性化させるのが必要と思う。それが1つにまとまるための協力体制ということ。これは商店街でも町内会でも大切だと思う。

委員 子ども会も、私が子どものころを考えると、旗振りに熱心な人がいた、大体は大学卒業生。おもしろいのは、隣の町内会でやっていると、こちらの町内会も、今度は俺がやると言って野球部ができたりする。それこそまさにつながり。ただそれも、情報交換の場が全然ないから今はできないのではないかと思う。

委員 それは本当だ。先ほども意見があったように、清掃に絡めてつながりをつくるという話では、我々町内会でやる際には公園についてはお年寄りとお子さんにしてもらっ

て、大人には幹線のところへ出て清掃してもらおうという進め方をしている。ただ、結局それでどうなるということが目に見えてこないのが課題としては残る。

企業の話で言えば、JFEがふれあい祭りをやっている。第1回目のときには地域と企業が一緒になって祭りをやった。これをもうちょっと広げようと、商工会議所を中心にしてそこに参加できる人が参加していく形で2回目、3回目をやって、ことしで4回目になる。そうやって、つながりという面からすると少しずつ発展しているのかなと。

その原点はどこにあるのかと考えてみると、区政推進会議がそうなのかと思う。あれが今日、少しずつ違った形で芽が吹いてきているのかなという気がする。

商工会議所では、地域の民芸品を育てて外へ向けて発信しようと、最近冊子もつくったし、案外いいものをつくりつつあると思っている。そういうものは川崎にもあることはある。だからこれをもう少しつなげていけば良い。それをつなげるために、どことどこかという交通整理を、担当の部局やそれを統括するところでもうちょっと力を入れてもらいたい。

部会長 今は課題出しをしているので、解決策は次のステップとして後で時間を取りたい。まずは各委員に発言をいただく。

委員 外国人の人たちは、十何年日本で暮しても、言葉がなかなか理解できていないから、恥ずかしくて相談に行けない人が多い。ついこの間も相談を受けたのだが、区役所に行けばわかることでも行けずに、子育てを通して知り合った人に相談に行くようなことが多いようだ。長く暮しても日本語を読み書きするというのはとても大変なことのようなので、同じように情報を発信しても、文が全く読めない。振り仮名を打ったとしても、例えば「区民会議」という言葉が読めたとしても、「区民会議」の意味は全くわからない。同じように情報提供しているようで、できていない。そういうところを工夫できないか。

町会ではいろいろな催し物があり、市政だよりでもいろいろな情報が発信されているが、実際には市政だよりは読まないし、新聞は取っていないそうだ。来ても漢字ばかりだから。

そういう意味で、外国人の人たちの声を聞きながら、どれぐらい情報が行っているのかを我々が知らないと、情報を提供しているつもりでもできていないことになってしまう。前回の会議で、町会の人たちから思い切って地域の中に来れば良いという発言があり、すごくうれしい言葉だ。何か仕掛けがないと飛び込んでいくことはできないものだが、日本語も教えてあげると言われた言葉に、そうだなと思った。町会で日本語を教えてもらえたら、外国人の人はすごく助かるだろうと。

区内で日本語を教えてくれるのは、私の勤めているふれあい館と教育文化会館だけ。

あとはビジネス学校のようなところに行くしかなくて、子育てをしている人や会社勤めの人にはなかなかできないことなので、ここだったら日本語を教えるという情報もあったらいいと感じる。

それぞれがいろんなところでいろんな良いことをやっているの、そういう情報を一気に見ることができるればいいのにとずっと思っている。今、区の子育て連合会では川崎区で子育てをしている方が、どこに行ったら子育てサークルがあるかということが一目瞭然でわかるように、区内の子育てサークルを1つの表にまとめようとしている。今までもこども文化センターや教育文化会館、町内会などで個々にはあったのだが、情報のつながりがなかった。

川崎区は平らなので、皆さん自転車であちこち行っている。いろいろな分野の情報がわかる、川崎区一覧表のようなものがあると良いと思う。そういった情報も多言語であれば本当は良い。まず自分のわかる言葉でいろんな情報がわかると、すごく良いと思う。

川崎区では、子育てに関する情報は多言語になってきているが、それ以外のところではまだまだ漢字オンリーな情報が流れていると思う。

部会長 前回委員からは、外国人市民には健康診断や避難訓練などの緊急の情報であっても、全然伝わっていない状況があるということも出ていた。

委員 前回、思い切って地域の中に飛び込める雰囲気づくりが必要だと発言した。地域の中で良い雰囲気をつくっていくにはどうしたらいいかということが先決だが、うちの町会ではいろんなイベントをやって、新しくできたマンションの人たちにも1軒1軒ビラを入れて呼び出しする。電話でも呼び出しをしている。

いろんなイベントやスポーツなどをやっても、中には人に嫌なことを言う人がどこのまちでも必ず1人2人はいる。一回嫌なことを言われたら、もう二度と出てこない。そういう人にはほかの仕事を与えて、遠くのほうでやってもらおう、ということをやっている。

(張り紙を示して) 私は、こういうことを言っている。人の心を無にしない。人が言ったことを全部取り上げよう。全体に物事をとらえなさい。幅広く興味を持ちなさい。個人的に人を責めるな。この5カ条を町内会館に張ってある。会議をするときには、必ずこれを読んでいる。この文句を書いて話をしていってからはワルはいなくなった。

そうすると、皆さん、いろんなものに出てくれる。今、大島4丁目では毎週金曜日に体育館を借りている。その中でバレー、卓球、バトミントンなどに分けて、子どもたちも出てきている。スポーツをやるために皆さんが出てくれる。

そうやってにぎやかにしていくと、この次にお祭りやイベントをするときは出てくれる。前回も言ったが、社会を明るくする運動で、大島ではビッグファミリーワンという

催しをやっている。こういう機会にいろんなイベントをやらせる。子どもにも、昔の遊びとしてザリガニ釣りやベーゴマをやらせたりして、いっぱい誘ってくると、大人がついてくる。だから子どもは大事だ。

今度、バスハイキングとして東扇島東公園でバーベキューをやる。350人～400人参加する。そういうイベントを通じて、明るいまちづくりをしたい。イベントを1つやると、楽しければまた出てくる。嫌な思いをさせたら、もう出てこない。そういうことを言いたい。

部会長 非常にモデル的な、良い町内会活動ができていますが、そういう雰囲気づくりができていない組織があるのも事実。そこで参加しやすい組織づくりが必要だということか。

私の意見は2つ。1つ目はネットワーク。区内でもいろいろな活動をされているグループがたくさんあるが、複数のグループで新しい取り組みを行うなど、もう少し連携活動をしたほうが良い。先ほども意見の出た協力体制と同じだが、何かをするときに隣の組織も関係して、広くおつき合いができるような関係づくりができれば良い。

これはすでに改善されたことだが、地域で行っている防犯パトロールについては、例えばPTAや青少年指導員、町内会などが、地域によってはばらばらにやっていて、同じ時間帯に同じようなコースをパトロールしていたという話がある。連携して役割分担すれば、負担も少なく、また効果的に行うことができるのにと感じたことがある。

商店街のまちおこしもそうだし、ガイド活動にしても地域の方々からいろんな情報を得れば、もっと大きなものになり得るのかなど。あそこの団体は何をやっているということがわかり合えるような、ネットワーク力が必要ではないかと感じている。これは言ってみれば情報が届いていないということにも行き着く。

2つ目は、先ほどの意見と重なるところが多いが、川崎区で一番特徴的と言え、外国人が多いということは疑う余地がない。外国人登録市民が5%を超えている。登録していない人も少なからずいるから、実感として10人に1人ぐらいになっているかもしれない。そういう状況下でありながら、うまく地域の中でコミュニケーションをとるとか、町内の外国人はみんな知っているということはなかなか難しいのではないかと。

前回の会議で、災害のときには町会に入っているも入っていないも、外国人だろうが日本人だろうが関係ないので、手をつなごうという発言があった。まさにそうだと思う。既存の組織では会員、非会員の区別はあるが、区民という意味ではみんな同じ。私は自分のまちを誇りに思いたい。生まれ育って、多分この先もこのまちで骨を埋めようと思っているので、愛着を持ち、外国人にとっても、川崎区はいいぞというまちでありたいと思う。

地域によってはスポーツ大会など、いろいろな活動をしている。それは世話役の方がいるからだと思う。地域に住んでいて一番思うのは、人づくりという意味で人が足りな

い。いろいろな会合、イベントでも同じ方々が出てくる。新陳代謝が良く人が輩出されるような地域は本当に限られていて、若い人もうまく参加しやすいような環境づくりをしないと人が育ってこない。少子高齢社会だが、地域は高齢者だけのものではないはずで、若い人にも自分のまちを良いまちだと強く感じてもらうためにはどうしたらいいか。今、そのあたりの手当てが足りないと感じる。

宮崎委員は前回、世代間のつながりの話をしてきた。今、恐らく親子関係がうまく行っている家庭は少ないのではないかと思う。昔は大家族だったので、おじいちゃんが孫に地域のことやいろいろなことを伝えていたが、今はそういった伝達もできない。世代間のつながりを取り戻したいという思いからの発言だと思う。

もう一つ、学校との連携について。私も地域教育会議のメンバーだが、学校、地域、家庭といったときに、学校は非常にガードが固い。施設開放は業務としてはやっているが、ハートのほうの施設開放はなかなか進んでいないのが実態ではないか。

地域の方々は、自分の地域の学校を愛していると私は思っている。自分たちの地域の子どもが健やかに育ててほしいと思っているので、地域の方が学校に入ってその手助けをすることがもっとできるのではないか。そうすることによって、先生の負担を少し下げることができないか。

ただ、今学校も、大阪の池田小学校の事件以来、なかなか学校に入ることさえうるさくなっている。そのあたりについて、いい方向で解決することができないものか。

一通り課題に関するご意見をいただいたところで、事務局でも例示として掲げているので、説明をお願いしたい。

事務局 <資料2に沿って課題の例示について説明>

部会長 今まで一通り意見をいただいたが、追加的にあったら発言いただきたい。

委員 我々の地域に日本鋼管の大きな病院がある。地域に大きな災害があったときに患者が病院に運ばれる際の対応について、私に相談があった。トリアージについて医者として取り組んでいきたいということで、過去5回、毎年春先に実施訓練をやっている。

その際には、運ばれた患者の色分けをするための札をその人に付ける。ついこの間、北海道の自連の大会に行ったときに事例発表をした町会があったが、そこでは町内にもしものことがあったときには、動けない人は一体どこに誰がいるか、誰はすぐにでも対応しなければいけないといった順番を、同じように色分けしていた。それを誰でもわかるような地図にして、発表した。これを取り入れることは大変おもしろいと感じた。これを区の町内会連合会の中で話を進めて、災害時の患者の救済識別マップというものをつくってみようかと思った。

これを利用して具体的に誰が対応するか。もちろん医療機関もそうだが、緊急の際に仕分けができるようなものをつくってあげて、区内の各地域にある包括支援センターがそういった情報を持って、何かあったときに対応してくれるというのはどうだろうかと思っている。町会がそういうことをやれば、案外若い人がついてくるのかなと。

実はついこの間、役員会で若い役員に言ったら、これはいい話だ、やらせてほしいというから、じゃあやってみようということになった。これは少し時間をかけてでも作ってみたいということなので、もしこういったことをやって、行政も支援していくことになれば良いのではないか。その過程では外国の方のことも分かってくるだろうから、そのことによってほかのことにも参加しやすいような場づくりができるのではないかと期待している。

委員 それはおとし、大島の連合町内会の防災訓練でやった。瓦れきをつくって、その下から救い出した人を医者に診てもらって、この人は心臓だとか脳卒中だとかを判定してもらおう。それに赤、白、黒などの色を付けて担架で体育館の中に運んで、これはこういう処置をしよう、などということをやった。

委員 そういう機運が各町会につくられるとありがたい。それが町会の役割になっていく。

委員 これが果たして区民会議へかけるべき問題なのかということには不安だが、ホームレスについて発言したい。三、四年前までは愛生寮の周辺にはホームレスが1000人いたのが、愛生寮ができてからは今600人ぐらいに減っている。来年度に愛生寮がなくなるのは地域住民の方々との話し合いで仕方がないと思うが、今度は富士見にある施設も富士見周辺の開発によってなくなるという話を聞いた。そうすると、またホームレスが増えてしまうのではないか。どこかに1カ所、そういうものを残してもらいたい。

それからもう1つ、前回のホームレス委員会の中で出できたことだが、救急車でホームレスを運んだとしても、汚い人だと市立病院ではそのままでは受け取らない。そのために愛生寮なり富士見なりできれいにして、それから連れていくのだという話を聞いた。それでは、本当の重症者は生きていられるのかと不安になった。愛生寮と富士見がなくなって、きれいにしなければ市立病院では受け取らないといたら、ホームレスは一体どうなるんだろうかと。

委員 富士見の施設については私も携わったのだが、あれは5年契約で入れている。5年の間に職場復帰させて、あそこをなくすという話をしている。市でもそういった責任がある。

事務局 ホームレスについては所管は健康福祉局だが、今後の方向性は、サテライト型や共同住宅型の小さな単位で、例えば民間住宅や市営住宅を借り上げて、自立支援の訓練をするという方式を今後とっていくという話を聞いている。

委員 サテライト型にしても共同住宅型にしても、大体6人ぐらいを一まとめにして入れていくわけだ。そうすると、今話したような市立病院で受け取らないということ、患者をきれいにすることはそういうところではできるのかなど、人権に関する問題が考えられる。

委員 愛生寮の話になったが、あれはうちで貸しているのだが最初は10年ぐらいの約束だった。結局、住民の反対で5年になった。1月10日とか11日からうちのは工事を始める。今、四、五十人いるという話だ。役所の裏にもいると思うが、住民との約束で、小土呂橋のあたりまでは受け入れるということになったが、役所までは受け入れ範囲ではないのだと思う。

これからどうなるかなと思う。僕としても貸した後、また元と同じじゃないかと言われても困る。ちゃんとしてくれよと言っているのだが、毎日、宿泊はしなくても二、三十人の人が体を洗ったりしに来ているらしい。こういう人たちは、知らない人同士が五、六人の施設には入らないと思う。そういう人はちゃんと衣服もきれいなものを着ていて、非常に清潔。そういう人は宿泊施設がなくなっても大丈夫かも知れないが、そういう場所もなくなってくると困るのではないか。

部会長 ホームレスが増えるのが心配だ、それは課題になる。それをどうするかは次のことで、区民ができることがあれば、今後も検討材料となる。

事務局 ホームレスについては、川崎区というよりも全市的な話。区民が解決するという話ではないので、その辺は分けて考えた方が良くと思う。

委員 それは全くそうだと思う。

委員 この間の委員会でその話が出た時に、いろんな事情があって路上生活をしているのに、それを市立病院できれいにしなきゃ診ない、そんなことはホームレスの人たちは本当にかわいそうだなと思って。

部会長 では、課題として取り上げないという理解でよろしいか。

それでは、我々の部会として取り上げる課題を決めたいと思う。このホワイトボード

にまとめてあるが、読み上げると、地域の連携ができていない。まとまるためには自慢づくりが必要、言い換えれば地域のことが余り知られていないので掘り起こしをしよう。情報発信力が弱い、共有化されていない。まだまだまとまりができていない。協力体制をもっと発展させる必要あり。外国人市民に十分な情報提供ができていない。参加しやすい雰囲気づくりが組織に必要だ。身近な環境整備ができていない。地域活動の重要性が浸透していない。商店街も企業も含めて、地域のいろいろなグループのネットワークができていない。外国人市民とのコミュニケーションがうまくとれていない。人づくりができていない。世代のつながりができていない。学校と地域の連携ができていない、言い換えれば子どもや高齢者が暮らしやすい地域になっていない。

数の上から、皆さんの意見をすべて取り上げるわけにはいかないと思う。もちろん1つに絞る必要もない。このうちの何点かをやろうということの良いと思う。次のステップとして、解決策の検討があって、実行計画という流れになる。

委員 私は発想を逆にしたほうが良いと思う。ない、ない、ないだと、どれもみんなないのだから。そうすると、次には何々すべきという話になる。そうすると大体反発する人が出てくるので、地域のつながりも何もなし。べき論を避けるほうが、より効果的だと思う。

例えばさっきバーベキューをやって連携が強まるという話が出ていたが、うまくいった事例があれば、その事例を広げていくというほうが大事なのではないか。

だから、情報発信力が弱いではなくて、強化するにはどうしたいかという発想。人づくりができていないではなく、人づくりをするにはどうしたらいいかという議論のほうが課題解決策を提案しやすいのではないか。

委員 地域の連帯ができていないというのは、どこへ行っても人づくりをしなければだめだ。良いまちをつくらうって、くだらない人ばかり集まったら良いまちはできない。何をしたらって人づくりが一番肝心。

事務局 確かにない、ないと出ているが、こういう課題があるのだから、では次にどうやってこの課題を解決していこうというのが次のステップ。今の課題をやって集約して、どういう解決策を考えられるかというのを検討する。流れとしてはそれでいいと思う。

部会長 「ない」という評価は全部ないような感じにさせるが、皆さんから「ない」という発言があるということは、そういう意見の背後に区民が感じているということ。それをどうにか解決しようというのが区民会議の役割。だから、言っていることはそんなに変わっていない。

委員 私、実は4丁目の町内会員なんですけれどもバーベキューのことは知らなかった。そういう楽しいことや良いことをいろいろなところでやっていると思う。それを知らせる方法がないことが多いと思うので、いろいろな活動のネットワークづくりをしていてはどうかと思う。

例えば何かイベントをしていくには若い人たちの力が必要だという話だが、若い人を入れてやるよりかは十何年一緒にやってきた人たちがぱっとやったほうが短時間でできてしまう。それでできる方たちがずっとイベントをやっていると思うのだが、必ずイベントをするときには新しい方を入れるとか、ボランティアを集めることなどを念頭に置いて、効率を良くするのではなく、人づくりを目的としてイベントづくりをしていく形でやっていったらどうか。

私は川崎区でしか暮らしたことがない。市民祭りは本当に川崎市の大きなお祭りになっていて、地域のお祭りはどこで何があるのかというのはわからない。後から来た人間なので、子どもに聞かないとわからない。子どもは良く情報を知っている。どこに行ったら聞けばいいのか分からないので、それは本当に情報が途切れているということだと思う。川崎区のいろんな情報を集めていったら、自分の力はあそこで使えるとか、あそこに行こうということになって、課題解決に少し貢献するのではないかと思う。そう考えると、連携ができていないということが本当に一番大きなことではないかと思う。

委員 私にとっては、町会に入ってもらいたいという思いが課題になってしまう。最近、以前から住んでいる人と新しくマンションに入ってくる人との関係づくりということが課題になっている。何か問題があった時にはマンション側から話をしてくるので、そこで1つのコミュニティが形成されるということはあるが、一般的に言えば、新しいマンションができ上がっても、町会に入る人は1人いるかいらないかという状況。我々としては、そうやって地域に入ってきた人をどうするかという問題がある。

できれば入っていただきたいという思いがあるが、入っていない。新しく転入してきた人が町会に入りたいと思ってもらうにはどうすればよいか。加入のための案内は結構できていると思うのだが、加入につながらないのはどういうことなのか。

我々は災害があったときのことを心配している。そういう人たちに1戸ずつアンケートを配って見たらどうかと考えたりもしている。我々としては町会に入ってくれば、総括的な話もできるという思いはしている。

委員 今のお二人の話を合わせると、逆に情報が余り過ぎるほどいっぱいある。市政だよりには本当に細々としたものまで載っている。ただ、そういうものがあることすら知らない、使われていないというのが実態だと思う。そういうものを包括した情報づくりの

拠点を作れないかという思いがいつもしている。区役所へ行って本を見ると、出ていないものはないのではないかと思います。思うほど詳しく出ている。

委員 多すぎて持て余してしまう場合もある。

委員 もう少し整理して、一番区民が悩んでいることを10ぐらい並べて、こういうことはここで聞けるという簡易な情報発信をしたほうがいいのかもかもしれない。

委員 アゼリアの観光案内所では、いつも歴史案内の方がいらっしゃる。そういうような、地域の観光案内所のようなところ、川崎区のいろんなグループ紹介や活動紹介をする場所、そこへ行けば、自分の入りたい場所や、歴史などを教えてもらえる場所があると、情報が途切れなくて良い。行政が出すものというのは行政が知っている情報しかないが、大島4丁目のことならば、大島4丁目の方がつくったチラシの方がよくわかる。「いいじゃんかわさき」だったら、「いいじゃんかわさき」の人が作った案内の方がわかる。自分たちのアピールしたいものだったらその方が作ったもののほうがよくわかるので、それぞれの団体が作ったものをどこかに置いておくとか、新しい住民の方たちに川崎区の良いところを教える大きなイベントを年に1回やって、その際にそれぞれの団体なりが自分たちの活動をアピールのはどうか。

事務局 地域団体をバックアップしている地域活動支援センターというのがあって、NPO団体などの地域団体を紹介することはやっている。

委員 そういうものはあふれるほどあるが、いざ困ったときには支援団体があったということを出しもしない。それが情報が途切れる点ではないかと思う。川崎市は本当に支援団体だらけと言ってもおかしいが、よく整っている。しかし、それがあるといふ情報が途切れている。

本当に困ってる人は、区役所へ行けば親切に教えてくれるが、区役所はそういうサービスをしているところではないと思っている人のほうが多いと思う。だから相談に行かない。

例えば私がアゼリアの観光案内所にいると、固定電話の申し込みや撤去をするにはどうすればいいかと聞かれる。NTTに問い合わせたところ、109に電話すればみんな教えると言われた。どこでPRしているんだということはNTTにも文句を言ったのだが、そういうように聞き場所がない人が最近は来ている。

そういう点で、聞けばある。ただ、どこへ聞いていいかわからない。確かに川崎区は行政サービス機関の一覧表は本当によく整っていると思う。私は一生懸命探しているほ

うだから、よく知っているのだとは思いますが。

委員 今言ったようなことをするためには、資料は個人情報を含むものがあるのがネックだ。そこは行政がある程度仕分けをした上で置くのならばよいだろう。全部オープンにすることはなく、関係者でそれを受け入れる体制をつくれれば良い。そういう形であれば、やってやれないことはないと思う。行政としては情報提供のための場所はできていると言うが、案外稼働していない。だから実際にどうなのかということ現場まで降りてきて、話し合いをした上で作らないといけない。

事務局 区民会議でそれが課題だという意見があって、解決策がどうだということが決まれば、それは行政としてどこまで協力できるかという話になる。今は課題をどういうふうに絞り込むかということをもとめていただきたい。

部会長 情報はあるが、問題はそれが到達していないこと。行政情報というのは相当あるが、それが求めているところまで行っているかということ、ちょっとクエスチョンがつく。それが課題であれば、それを改善するための解決策が出て、具体的な計画に結びつく。いずれにしても今日は区民会議として取り上げるべき課題を議論してほしい。解決策は次回で構わないので。

委員 私は一貫して言うが、情報拠点。アゼリアの観光案内所も、観光案内所という看板を出したって、銀行のハンコをなくしたが、お父さんはぼけちゃったから預金をおろせない、どうしましょうなんて、そんなことを聞きに来る人が圧倒的だ。

だから私は、情報拠点というのはどういう形がいいのかなどの問題が出てくると思う。これからそこら辺の細部を詰めなくてはならないと思うが、私は川崎市は情報を外部に出すのが下手だと思う。横浜市は何かやると、すぐ名前だけは聞こえてくる。情報発信が上手だなと思う。それは行政だけのことでなくて、我々自身を含めてのことだ。

部会長 情報発信力が弱いということか。

区長 聞いていて感じるのは、情報はいっぱいあるが到達していない。ただ、情報というのは必要な人にとって価値があるもの。そのつなぎをどうするかという問題だと思う。区でも相談情報コーナーというのがあって、行政情報がたっぷりあるのだが、それを必要とする人が誰なのか。ただ集めて流していれば到達するという話でもないのではないか。だから、何かあったときに、こういう情報が欲しいと問い合わせるポータルサイトのようなものを整備しておくのも一つの方法ではないかと思う。情報については、必要

な人がそれを得られるシステムを考えるということが重要ではないか。

正直言って、行政がやると、民間の情報の扱いが難しい。どんどん集めなければいけないものだとは思いますが。もう1つ、外国人市民ということであれば、ある特定の電話番号で、毎日というのは多言語だと難しいと思うので日を決めて、情報を伝えることも考えられる。英語でもいいというのであれば方法論としてはあり得るが、そういった仕組みをどうするかとだと思ふ。

委員 私は、情報センターと言っても建物を作ればよいというのではなく、作ってから欲しい人にどうやって情報を流すかという細部の仕組みづくりも必要だと思ふ。

それともう1つ、私はやはり愛着心が大事だと思ふ。愛着心は歴史の意味する部分が相当大きいので、川崎市は過去を知りましょうという意味でもある。

区長 がっかりしたのは、区民会議を知っている人は区民の中で20%ぐらいだというアンケート結果であった。職員が市政だよりなど、いろんなところで広報しているにもかかわらず、まだ20%。市政だよりは多くの人が見ていると思うが、記憶に残らない。だから、関心事があるときに、どこに連絡したらその情報が得られるかというのは、そのシステム全体をどうやって考えるのかということが必要だろう。それは多分民間の人の協力は絶対条件だが、民間の人に運営していただくということはちょっと考えられないと思ふ。

委員 皆さんからの意見を聞いていて思ふのは、地域の自慢づくり。地域の自慢であって、行政がつかんでいないことは、各地域の自治会などから聞かなければいけない。人を育てるときには、ほめて育てるなど、いろんな方法はある。地域で、先ほど話があったようにバーベキューをやったりだとか、ごみ出しがいつもきれいにだとか、おれのところはこうだと各地域で出してもらおうと、出ないところは、おれのところでもあれをしようという話にもつながる。宮本町は稲毛神社のお祭りがいつあるとか、そういうものを各町内に広げて行って、役所から出る情報ではなく地元の情報を出してもらおう。そういうふうきちんと情報を出してくるには、地域のグループやネットワーク、子どもと大人の関係などがきっちりしていないといけないわけだ。

その際に責任者の電話番号を書いておけば、おれのところはこうやるがそちらはどうだと話ができる。今度おれのところでやるから1回見に来なよという話になって、少しずつでもいろんなつながりが出るのではないか。地域地域で良いものを育てようという気にもなると思ふ。

そういったことをモデル地区でやって、ただ、ありますよというのではなくマスコミを通じて広報すれば、おれのところでもやってみようということになると思ふ。何か仕

組みづくりに協力していただけるような地域の人を通じて表に出したらいいのではないか。

また、前回から出ている情報の問題で、区役所がどのくらいまで関わられるのかなと思っている。ただ外国の人がお世話になるのではなく、逆に僕らがお世話になるということで、外国の子どもの遊びや風習だったり、料理をみんなで食べるというようなことをイベントとして行って、地域の人と一緒にできれば、そこでつながりができる。さっき出た言葉の点でも一般日常会話で、難しいことを言わないでごみはこうしなければいけない、日本のルールだと気楽に言う。そういう逆に日本人がお世話になるような企画をして、何か取り組めるものを町会と一緒にやってもらえば、少しでもお互いにつながりができるかなと思う。せっかくの区民会議なので、地域で自慢できることをだんだん増やしていったり、そこへいろいろつけ加えたりしてはどうかと感じた。

委員 今出ている2つの言葉をつないで、人づくり世代につなぐまちづくりというのがみんなにわかりやすいのではないか。家庭が良くなければ良いまちはできない。1人1人の家庭が大事。発端はそこから出なければだめ。それがまちづくりなんだ。

部会長 次世代につながる人づくりが必要だということか。

委員 防災の分野の課題だが、外国人や障害のある人、高齢者の防災訓練も必要。防災は訓練しないとなかなか身につかない。そういうところが抜けていると思うので、課題として入れていただけると。

部会長 繰り返すと、情報関係、人づくり関係、外国人市民への対応、コミュニケーション。それに高齢者・障害者・外国人市民も含めての防災対策。

委員 あとは自慢づくり。下から持ち上げる情報。

部会長 要するに地域の愛着心を育てる活動も必要ではないかと。これまでに5点が挙げられている。もう一度整理すると、情報発信力が弱い、共有化されていない、要するに情報の到達度が弱いのでどうにかしようという課題。次世代につながる人づくりをしていこうというのが2点目。地域への愛着心を育てるような活動がもっと必要ではないかというもの。外国人市民に対する情報提供。防災。

委員 外国人とのコミュニケーションがうまくとれないというのは、結局、身の安全ということもある。だから、防災による地域の連携といたら、その地域がどう受けとめて

くれかということになる。言ってみれば、受け入れ体制ができていないということ。個の場所だとなかなか解決できないから、公園のような場を活用すべきではないか。

最近はお年寄りのゲートボールやグラウンド・ゴルフなどで結構公園は使われているが、そのほかには使えないのか。下手をすればおかしな子どもたちのたまり場になってしまう。本来公園というのは人が寄る場所であるのに、あの公園は汚いから行くなと親のほうから子どもに言うし、子どもは公園に行きたいけれども行けない。公園の活用の仕方考えることも大事。

活用の仕方としては、一たん災害があったときに、誘導する場所。広域的な避難場所として、そこから少しずつ発信していくとか、そういう機能ができていないようなまちであってほしい。

公園で消防関係の方が来て訓練をしたり、そういう公のことはやっているが、そのほかのことでは活用できていない。もう少し工夫すれば、もっともっと公園は良さが出てくると感じる。ベンチがあって、ゆったりして本でも読んでという、それも公園としては良い使い方だが、森があってゆったりした散策ができるような、そういうところは都会の中にはない。むしろ、戦後に都市計画の中で不要な場所ができてしまって、それが公園になったと言えることが多い。そういうことであれば、むしろそういう人たちの活用の場にしてほしいと思う。

そこには定期的に何か相談できるような場所が設置されていてもおかしくないと思う。公園課はすごく頑張ってしまうと、何かするといったら、許可が要るなどうるさいことばかり言う。公園の機能は、最近では町会長の判断である程度活用しなさいというふうに緩やかになってきたから、そういう点では少しずつ公園の使い道はその町会町会ごとにできつつある。ここをもうちょっと整理してもいい。

事務局 今のお話は、防災対策に関する具体的な解決策に当たるので、それはまた先に論議していただくということで。

部会長 今日はこれまで5つが出ていて、連携関係が今のところ入っていないが、その辺はいかがか。部会名がまさにつながりなので、その辺を。情報発信をうまくやれば、その辺もうまくいくということもあるだろうが。

委員 どの切り口から入っても、みんなつながっていくので、どれでも同じ。

委員 まちづくり自体が連携になのであるから、連携がうまく行かなければ地域はだめなんだ。

委員 今話が出た公園について、お願いだが、公園法のわかりやすい解説書みたいなのは

ないか。公園法では遊具がなければいけないなど、いろいろ規定がある。そうすると、緊急事態で飛び込んで避難場所になるようなところにぶらんこがあったりする。広場にしておくほうがかえっていいと思う。丸太でも五、六本転がしておけば、子どもたちは遊ぶ遊具は考えると思う。だから、公園法というのはどこまで規制されているのか。

委員 比較的規模の大きいところなら良いが、やたらに公園にそういうものを置けばいいんだという発想はどうかと思う。

委員 前に稲毛公園の活用などというときに出たのは、それは公園法でこうなっている、これは公園法でこうなっていると法律ばかり出てきて、何もできないじゃないかと思っ
て聞いていた。

事務局 それに関しても全市的な話になる。

部会長 以上の5つでよろしいか。

各委員 異議なし

(2) 解決策の検討について

部会長 今日皆様のご発言の中で出ていた解決策については、次回にきちっと出していた
ただいて、実行計画まで落とし込んだ上で全体会に上程したい。

実行計画をまとめるには、何を、誰が、いつまでにという落とし込みをして、それを
全体会に上げることが必要になる。したがって、今日出した課題について、それを具
体的にどうするんということ、宿題という形にさせていただきたい。

その前に、事務局が資料2で解決策の例示を出しているので、説明をいただきたい。

事務局 <資料2に沿って解決策の例示について説明>

部会長 これはあくまでも例示。我々は課題を5つ出したので、それに対する解決策をか
なり具体的に示さないといけない。皆さんでそれぞれについてこういう方法があるの
ではないかという提案いただきたい。次回の部会では、皆さんに出していただいたもの
を検討して、こういう解決策に取り組もうということにしたい。併せて、誰が、いつや
るということを次回の部会で検討したい。

3 閉 会

事務局 <専門部会の日程調整、区ホームページでの会議録公開、市政だより川崎区版への記事掲載を説明>

午後 8時46分 閉会